

## ゼミ活動報告 「大社専務を訪れて」

鮫島涼子

今年は大きなテーマとして、企業がスポーツチームを持つことの意義や、効果、また球団のビジネスモデルとはどのようなものかを研究対象としています。今回は大社専務に直接お話を伺う機会を頂き、梅田のブリーゼタワーにある日本ハム本社へ行きました。



大社啓二さんは日本ハムの元社長でかつて北海道日本ハムファイターズのオーナー並びオーナー代行を長年務められ、言わばファイターズを成長させた立役者と言えるお方です。球団の理念やこれまでのファイターズの戦略、今後の展望など貴重なお話を語って頂き、球団ビジネスの仕組みに触れることが出来ました。日本ハムへの熱い思いを感じ

られ、ゼミ生みんな圧倒されました。

関連書を読むだけではイメージできない、リアルな球団経営の実態を知ることができ、ますます研究への意欲が湧きました。

球団を持つことの主な位置づけは広告宣伝だと聞き、球団は本社に対してそれ以上の価値はないのか、もしそうならばどこに現れるのだろう、と様々な疑問が浮かびゼミ生で話し合いました。貴重なお時間を頂き本当に有難うございました。



本稿は大阪市立大学商学部宮川研究室ゼミ生の活動報告を目的として本学学生が作成したものです。本稿に掲載される個人名や企業名はご本人のご協力を得て掲載許可をいただいています。ただし、内容については執筆者の主観的感想や主張が入っており、事実とは異なる場合があります。本稿の目的以外にご使用にならないようお願いいたします。